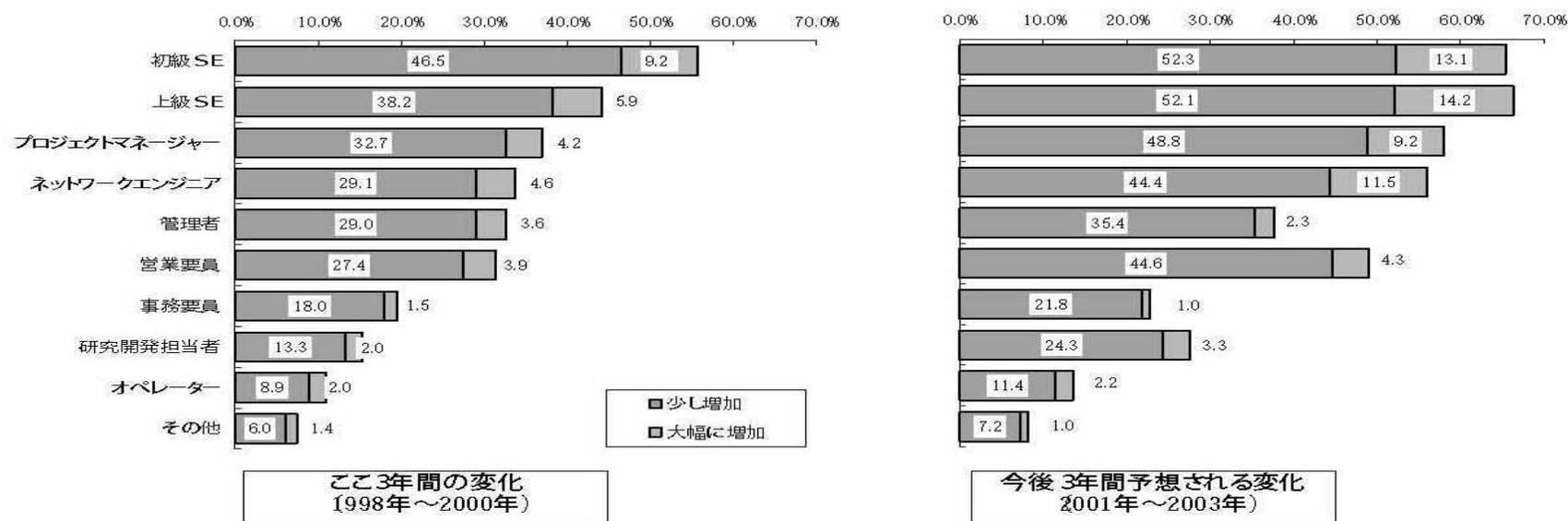


● 情報関連産業における職種別にみた正社員数の変化(JILH13調査)

日本労働研究機構が実施した「情報関連企業の労働面についての実態調査」(以下「JILH13調査」という)によると1998～2000年の過去3年間に正社員が増加したと回答した企業について、その増加割合を職種別にみると、「初級SE」で55.7%、「上級SE」で44.1%となっている。

今後3年間に予想される変化では、全ての職種において、増加を見込む割合が過去3年間の実績を上回り、特に「上級SE」(66.3%)、「初級SE」(65.4%)、「プロジェクト・マネージャー」(58.0%)、「ネットワークエンジニア」(55.9%)で増加を見込む割合が高かった。

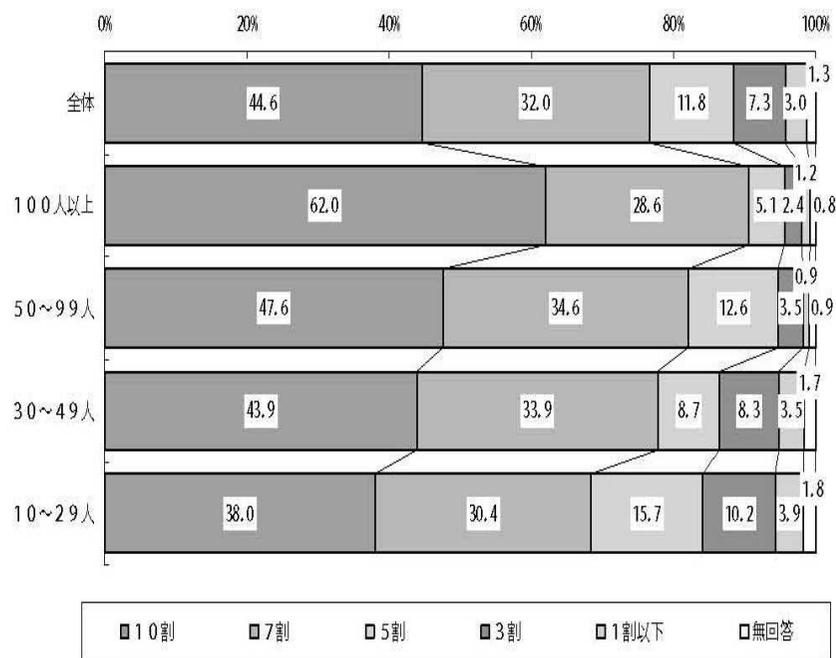


● 情報関連産業における職員採用の達成状況等(JILH13調査)

ここ3年間の採用状況について、採用計画通り(10割)に採用できたとした企業が44.6%、「7割」程度が32.0%。小規模企業での採用計画達成の状況が顕著である(左図)。

職員採用が困難だった理由については、「応募者は多かったが、採用希望職種に必要な知識・技術を持った人材が少なかった」が56.0%、「応募者全体の数が少なかった」が21.3%。小規模企業での応募者不足が目立つ。

【職員採用の達成状況】



【職員採用が困難であった理由】

